

未来をめざした街づくり



カスミ水海道店の撤退と市民の広場の有効活用策及び複合的施設の建設について市長の考えを問う



水海道公民館

市長 話とは桁違いの話になってくる。市としての考えは。

水海道公民館をまちの活性化の核としてカスミ跡地に移設するという案を検討している。

議員

水海道公民館は、道路も駐車場も狭い。車社会に対応できるような都市づくりをしていかなければならない。カスミ跡地と市民の広場を一体として活用する考えはあるか。

市長

一体として考えていきたい。

議員

未来を目指した手法で物事を考えていくことが必要である。生涯学習センターは250席が限界である。四、五百人が入れるような複合施設をつくってほしい。公民館と複合施設と両方使える多目的な施設をつくってもらうことによって機能は十分果たせる。また、面積が広いので駐車スペースも十分間に合うと思う。そのような形で考えていただきたい。

市長

つくるのであれば単なる公民館だけではなく、多機能な施設を現段階では考えている。



管理職になりたい女性は少数派!?

女性の管理職登用と今後の方向性

議員

安倍総理大臣も女性の登用に ついて非常に前向きな姿勢を示しているが、女性の登用というのは、なかなか難しいものがある。課長より上の役職に就きたいという女性職員は大変少なく、まず二の足を踏む。このような状況で女性職員の登用をどのようにに考えているか。

総務部長

まず係長への登用を積極的に進め、次のステップとして課長補佐、さらに課長級、部長級への登用を進め、女性の登用率を上げていきたい。

議員

例えば、採用時において、総合職と専門職に分けて採用するという採用の仕方があってもいいのではないか。

総務部長

採用時から男女の差なく昇進していけば、課長になりたくないというプレッシャーも少ないと思う。他市の状況など有用なものがあれば導入していきたい。

議員

「男性も女性も同じように仕事をし、同じように登用して」と言うが、女性には出産などいくつかの壁がある。その壁に当たってこの先どう進んでいくかというときに、誰が相談に乗るのか。男性では無理だろう。だから、最初から総合職で採用するのか専門職で採用するのか決めておいた方がいいのではないか。職員は、仕事を覚える前に3年から4年くらいで部署を動いてしまう。専門職をつくっていくことも役所がこれから伸びていく上では大切である。もっと女性の立場で、女性が働きやすい、また管理職として登用できる環境をつくっていくためにどうしたらいいか真剣に考えてもらいたい。

中村 安雄 議員

中島 亨一 議員

